

# 「こころの家庭教師」の役割について

～相手のニーズに合わせた関わりの考察～

## The psychological role of the supporting tutor for students

### The relationship corresponding to the needs of students

文学研究科教育学専攻博士前期課程修了

松 尾 香 恵

**Kae Matsuo**

## I. 問題と目的

最近、いじめや虐待などが、大きな社会問題として注目を集めている。学校では、いじめを受けたことにより児童生徒が自らその命を絶つという痛ましい事件が依然として発生しており、このような状況を踏まえ、文部科学省が声明を出すなど、緊急の事態でもある。

「この年頃の人々は、自分の心のなかで起きていることがよく把握できず、しかもそれをうまく言語化することができない<sup>1)</sup>」と言われ、思春期の児童生徒にとって「安心して何でも話したり相談できる人」の存在はとても大切であると考えられる。

不登校・ひきこもり等の不適応状態にある児童・生徒に対する援助的試みのひとつとして、非もしくは準専門家が、家庭教師としてその家庭を訪問し、援助的関わりをもつ治療的家庭教師、あるいは家庭教師的援助者と呼ばれている活動がある。<sup>2)</sup>

本研究では、「こころの家庭教師」の役割について、「子どもとその家族への望ましい関わり方とは？」という視点で研究をすすめる。

### 1. こころの家庭教師とは

#### (1) こころの家庭教師の定義

心理臨床の領域では、コミュニティー心理学の発想が重視され始め、面接室やプレイルームでクライアントと出会うという従来の形態から、クライアント宅にセラピストが出向く形態もとられ始めている<sup>3)</sup>。不登校の子どもに対するアプローチとして、心理臨床家における家庭訪問をはじめ、いわゆる非専門家である「ボランティアが、精神衛生上のさまざまな問題を持つ人に対して、その解決をめざして、一種の交友関係を持つ」<sup>4)</sup>といったコンパニオン活動や、メンタルフレンド活動など、多少視点が異なるものの、さまざまな試みがなされている。

そのひとつに治療的家庭教師が含まれるが、これらの領域は、概して十分に理論が確立されているわけではなく、「治療的家庭教師とは何か？」という点について、はっきりと定義されたものは見当たらない。治療（者）的家庭教師、家庭教師的治療者、訪問家庭教師など名称もさまざまである。しかし、冒頭で示したように、「不登校・ひきこもり等の不適応状態にある児童・生徒に対する援助的試みのひとつとして、非もしくは準専門家が、家庭教師としてその家庭を訪問し、援助的関わりをもつ治療的家庭教師、あるいは家庭教師的援助者と呼ばれている活動がある。」<sup>5)</sup> という点においては共通の定義と考えられるであろう。

これらは、言い換えれば、広い意味での訪問（心理）援助活動の1つである。訪問（心理）援助活動には、メンタルサポーターやメンタルフレンドなど、学校や児童相談所を通して派遣されるものから、一般の家庭教師センターなどからの紹介によるもの、NPOなどを通して紹介されるものなど様々である。

治療的家庭教師として関わる相手は、いろいろな状態である場合が多い。学習の遅れをとりもどすことが目的である場合から、情緒障害や何らかの障害を持っている場合、また不登校やひきこもりなど、様々である。これらを一言でまとめるならば、「不適応」ということになるであろう。

先行研究においては、このように、いろいろな不適応をかかえる人に対する訪問援助の名称として、「治療的家庭教師」という言葉がもちいられてきた。

本研究では、この「治療的家庭教師」という名称について、「こころの家庭教師」と定義したい。治療的という言葉には、医療でいうところの「診察」や「投薬」のような意味合いが感じられる。これに対して、「こころの家庭教師」と筆者が定義したのは、教育的な意味合いを含めたモデルとして、「こころの家庭教師」を考えたいからである。

それでは、「こころの家庭教師」とは何か？ それは、対象となる相手の状況は一定せず、いろいろな問題をかかえた人に対して、一緒に遊んだり、話しをしたり、勉強をしたり、いろいろなコミュニケーションの方法で関わっていかうとするものである。そして、関わる相手のこころに、少しでも近づいていかうとするものである。

本研究においては、この後は「こころの家庭教師」という言葉を統一して使うが、先行研究の引用部分においては、原文をそのまま使用する。

## （2）こころの家庭教師の役割

まず、先行研究において、こころの家庭教師の役割はどのようなものであろうか。

精神分裂病疾患をもち、かつ不登校状態にある生徒に対するこころの家庭教師の援助について、村瀬<sup>6)</sup> は自らの心理治療に治療的家庭教師を導入した契機として、

- ① 学習の遅れをとりもどす場合
- ② 地域社会で孤立しており子どもらしい遊び活動の経験が不足しているのを補う場合
- ③ 相当重篤な精神症状を示して自閉的生活を送っており、村瀬の個人治療を家庭生活のなかで補い、

個人治療経験を深化拡大させるのを期待される場合

- ④ 対人関係が家庭に限られてしまっているため、Identificationのためのモデル、あるいはいわゆる仲間、お兄さんお姉さんの存在の人物が求められる場合の4点をあげている。

また、近藤<sup>7)</sup>は、治療的家庭教師の必要性を感じる場合として、

- A. 情緒的問題と共に学業面での不振や自信欠如が子供にとって重大な心理的障壁となっているような場合
- B. 自閉的傾向を有する子供、登校拒否児あるいは分裂病寛解期にある青年等、対人接触が必要であり、意味あるとも思われ、本人の中でもそれを求める気持ちが熟しつつある時、にもかかわらず現実には一人の友人もなく、家族もその代役を果せず、ひとり自室に閉じこもって無為な時間を過ごしているような場合
- C. 例えば女兒で、父親との葛藤から男性像が極めて悪く、それが現実での対人関係の進展を妨げている時で、治療者では（例えば女性であって）その役を十分に果たしきれぬような場合をあげている。

治療的家庭教師、あるいは家庭教師的援助者が行う主な援助目的と活動について緒方<sup>8)</sup>らは、

- ① 学業を教える教育的役割
  - ② 同一化モデルとしての心理発達の役割
  - ③ カウンセラーとしての心理療法的役割
  - ④ 家族に変化をもたらす家族療法的役割
- の4つをあげている

このように、こころの家庭教師の援助目的と役割はそれぞれのケースによって異なるものであるといえる。また、その対象となる人も様々で、年齢も、子どもが中心ではあるが、成人した大人も含まれることもある。

以上のように、こころの家庭教師は、様々な不適応をかかえた人に対して、柔軟に対応する援助者であり、その役割も関わる相手の人によって異なるといえよう。

## 2. 目的

### (1) 本研究の目的

本論文では、「こころの家庭教師」の役割について、「子どもとその家族への望ましい関わり方は？」という視点で研究をすすめる。

具体的には、6人の「こころの家庭教師」の方に半構造化面接をして、そのインタビュー内容を、グラウンデッド・セオリー・アプローチの手法に準じて分析してみる。そして、6人に共通すること

と、異なる部分について、比較・検討してみる。

本研究の目的は、こころの家庭教師という同じ立場にある人が、いろいろな問題をかかえる人たちに、どのような関わり方をしているのかということ、それぞれの方のインタビューのデータの中から、探ろうとするものである。そして、グラウンデッド・セオリー・アプローチの方法での分析の作業を通して、「その人にとって対象がもつ意味と、それに対する相互のやりとりという、表面には現れていない現象の構造とプロセスを把握することが目標<sup>9)</sup>」である。

そして、インタビューに応じてくれた人たちも、「普段は意識していないが、確かにそうである。」というような、分析の結果を示すことが目的である。

## II. 方法

### 1. なぜ質的研究か

本研究は、「こころの家庭教師」の役割について、何らかの不適応状態にある人への、「望ましい関わり方はどのようなものであるか？」ということをはっきりとすることを目的にしている。これは、1人1人がどのように語るかということに注目し、できるだけありのままの意味や実際の関わり方を見つけ出すことに焦点をあてようというものである。

以上のような点から、本研究の目指す「できるだけありのままのかたちを捉える」方法である質的研究法を採用した。

それでは、質的研究とはどのような研究方法であろうか。

能智<sup>10)</sup>によれば、質的研究とは、「主に記述的なデータを使って言語的・概念的な分析を行うこと」であり、扱われるデータも研究の最終結果も、ともに日常言語であるところに大きな特徴を持つ<sup>11)</sup>。質的研究では、言語を媒介にして多様な情報を取り込み、人々の主観的体験や日常生活にアクセスすることができる。また、概念を導きそれらの関連を探る質的分析は、仮説の生成・検証プロセスを扱うことを可能にする。このように、質的研究は、従来の研究方法論を用いる際の困難な点を補い、臨床心理学の実践性という特徴を生かし得る方法論である。<sup>12)</sup>

本研究では、6名のデータを詳細に分析することにより、それぞれのデータに共通するもの、また、異なるものを導き出そうという目的がある。そして、質的研究の導入により、これらのデータを統合した仮説の生成を目指そうとするものである。つまり、1つの事例の紹介に終るのではなく、複数の事例を比較・検討しようというものである。

### 2. グラウンデッド・セオリー・アプローチについて

質的研究ではしばしばデータの収集と分析が相互に影響しながら研究を進展させていく。この相互作用をとりわけ強調しているのは、グラウンデッド・セオリー・アプローチである。この方法は、他

の方法に比べて手続きがはっきりモデル化されているところに特徴がある。(特にStrauss&Corbin 1990)。このモデルに対しては、まだ批判も多いが、汎用性が高く、さまざまなタイプの質的研究に利用されている。<sup>13)</sup>

本研究では、以上のようなグラウンデッド・セオリー・アプローチの手順にそって、分析を進める。

参考にしたのは、Strauss&Corbin<sup>14)</sup>、Glaser&Strauss<sup>15)</sup>、木下<sup>16)</sup>、戈木<sup>17)</sup>である。なお、具体的な分析方法は、水野<sup>18)</sup>を参考にした。以下では、このグラウンデッド・セオリー・アプローチについて説明をする。

グラウンデッド・セオリー・アプローチという研究法は、データに基礎づけられた、地に足のついた理論、といった意味であり、「データ対話型理論」とも言われる。

この研究法でいわれる「データ」とは、「GlaserやStraussが提唱する方法によってシステマティックに収集されたデータ」である<sup>19)</sup>という。そして、そのシステマティックな方法にあたるのが「理論的サンプリング」、「継続的比較分析」と「概念生成」である。

水野<sup>20)</sup>によれば、グラウンデッド・セオリー・アプローチによる理論の生成のプロセスの詳細は、

- ①データを用意する
- ②データ同士を比べ、何らかのまとまりを見出す
- ①と②を繰り返し、まとまりを洗練させる
- ③が「飽和」に達したら、理論を立ち上げる

という段階からできている。このうち、②に相当するのが「概念生成」であり、③に相当するのが「理論的サンプリング」と「継続的比較分析」である。ここで、「概念」と呼ばれているものは、「データのまとまり」のことを指し、「カテゴリー」とも呼ばれる。データ同士を比べて、共通点と相違点を見出す作業が「概念生成」と呼ばれる。この概念生成を助ける手続きの1つが「コーディング」と呼ばれ、豊富な言語情報を含むローデータの内容を要約した短い言葉に置き換える作業のことである。木下<sup>21)</sup>においては、「コーディングは必ずしも必要な作業ではない」とされているが、基本としては、コーディングは行なわれている。

グラウンデッド・セオリー・アプローチのデータ分析の方法は、「絶えざる比較法 (constant comparative method)」と特徴づけられるが、Strauss&Corbin<sup>22)</sup>は、これを3段階のコード化としてモデル化している。

本論文では、具体的な分析の手続きの流れの中で、ラベル名をつける→カテゴリーの生成→仮説の生成までのプロセスを、このモデルを参考にして行なった。

### 3. 本研究の手順

#### (1) 本調査

本研究では、インフォーマント (情報提供者) に対して「こころの家庭教師は、いろいろな問題を

かかえた人とその家族に、どのように関わるのが理想か？」ということを中心にした、半構造化面接を実施し、その会話の内容をICレコーダーに録音した。予備調査も行なったが、紙面の関係上、ここでは本調査の結果を中心に示す。インフォーマントの内訳と質問の内容は以下の通りである。なお、これより後は、情報提供者については「インフォーマント (Info)」と呼ぶこととする。

本調査では、6名の「こころの家庭教師」にインフォーマントを限定した。

この6名については、属性が共通する人（こころの家庭教師経験者であり、心理的援助がメインの人）である。

- ① インタビューの期間—2006年の8月～10月
- ② インタビューの場所—インフォーマントと相談のうえ、大学構内の静かな場所等で行った。
- ③ インタビューの時間—60分～120分

## (2) インフォーマント

6名のインフォーマントについて、こころの家庭教師の経験の短い人～長い人の順番で、それぞれのデータを得て、比較・分析した。インフォーマントの詳細は、以下の通りである。

表1 こころの家庭教師 インフォーマント一覧（本調査）

No	年齢・性別	学年・職業	経験年数	どのような人に関わったか
1	20代・男性	大学院生（修士課程）	1年未満	統合失調症（アスペルガー）・不登校
2	20代・女性	大学院生（修士課程）	2年未満	不登校・神経症
3	30代・女性	大学院生（修士課程）	2年	不登校
4	20代・男性	大学院生（博士課程）	5年以上	ひきこもり・不登校・人格障害・アスペルガー
5	20代・男性	大学院生（博士課程）	5年以上	自閉症・不登校
6	60代・女性	元教員	5年以上	不登校・非行

## (3) 質問項目

インタビュー項目は以下のとおりである。（大項目のみ）

- ① 家庭教師にはじめて会った時、どこに注目するか？
- ② 「印象深い家庭教師の言動」はどのようなものか？（良い意味で、悪い意味で、どちらでも）
- ③ 「家庭教師への期待」は何か？（どのような人がいいか、どのように関わって欲しいか）
- ④ 家庭教師として子どもに関わることに、家族と子どもとの葛藤は？
- ⑤ 「良い家庭教師の条件」とは、どのようなものか？（年齢、性別、経験年数、その他）
- ⑥ 最後に、治療的家庭教師として、子どもにどのような関わり方をしていくのが良いと思いますか？

以上のような質問項目にて、インタビューを行なったが、あくまでも、「こころの家庭教師として、子ども（相手）に対してどのような関わりが望ましいか？」ということに焦点をあてて、それぞれの方に語ってもらった。そのため、インフォーマントによっては、答えてもらっていない項目もあるし、質問項目にないようなこともお話ししてくださった方もいる。

#### (4) 分析の手続き

インフォーマント1～6から得られたデータをもとに、グラウンデッド・セオリー・アプローチの手順に沿って分析を行なった。

##### ① 切片化

本研究では、Info 1～Info 6まで、インタビューの全ての会話（質問者の発言も含めて）を逐語に起こし、データとした。そして、そのデータを、「ある意味をもつ1まとまり（だいたい1～2文）」を1つの切片とした。データの切片化の例は次の通りである。

表2 データの切片化の例

番号	データ	→	要約	→	ラベル
162	僕が一つ考えたのは、治療的家庭教師として大切なのは、家族に入っていくってことだと思うんですね。		・治療的家庭教師として大切なのは、家族に入っていくこと。		家族への関わり方
163	だから、そういうグループのダイナミクスみたいなものを見ることをめんどくさいと思わない人がいいと思うんです。		・グループのダイナミクスを見ることをめんどくさいと思わない人がいい。		家族全体を見る
164	例えば、母親から、これは子どもに内緒ですってメールが来た時に、めんどくさいなって思っても、それも含めて見ていく、		・母親から言われたことも含めて見ていく。		母親のニーズにもこたえること
165	外来型の心理療法だと、家族からスポットと子どもだけを抜き取って、治療していくこともできると思うんですけども、		・子どもだけを治療していくこともできるが。		子どもだけの治療ではない
166	家に入っていけば、彼らの部屋が見れたり、家の中も見れるので、そのへんもすべて、めんどくさいと思わない人がいいなど、やりがいがあると思いますね。		・めんどくさいと思わない人がやりがいがあると思う。		家族全体を見る

##### ② ラベルをつける

2番目に、①で文章ごとに区切られたデータをまず要約し、さらに、それぞれの内容を表わすような「ラベル」をつけた。(表2参照) これは、生のデータを概念におきかえる大事な作業であり、すべての分析過程の中で筆者が一番時間をかけた部分である。最初は機械的に、ただデータを要約したようなラベルをつけてしまったが、何度も見直しをして、ラベルをつけなおした。ラベルは、1つの切片に2つになるものもあった。最終的には、あまり抽象的ではなく、そのデータの内容を反映するようなラベルをつけた。

##### ③ カテゴリー化する

3番目に、ラベルをつけた切片を、かたまりごとにはさみで切り離し、バラバラにした。そして、②でつけたラベル名を見ながら、同じような意味をもつものをグループにした。そして、1グループごとに読んでみて、本当にその分け方で良いか確認をする。確認したら、グループごとに1枚の紙に貼り、

それぞれのグループのラベル名を全部言い表すような名前をつけた。これが、カテゴリーである。このようにして、切片化したデータをグループにまとめていく作業により、抽象度があがっていく。

表3 カテゴリー生成の例 (Info 1)

データ切片 →	コード →	カテゴリー
中3のその子に関しては、そのときの気分ていうか、その子の気分にあわせてなんですけど、最初の頃は映画見たりだとか、パズルやったりとか。	子どものニーズに合わせる	相手のニーズに合せること
あんまりそれ以外に家から出てないみたいなので、その、全然家族以外の人と雑談するのも意味があるかなみたいな、勉強もするし、そうでないこともするしみたいな。その子の気分にあわせてみたいなき感じですね。	子どもの状況に合わせて	
そういうのは、そういう子って自分のことをわかって欲しいけど、そこまで急に入ってこられたくはないみたいな、て両方の気持ちを持つてると思うんで、そういう意味では何か、ゆっくりとっていうか、じわじわとやっていくっていうのが必要だと思うんで。	子どもに合せた関わり方	
その時は対症療法じゃないですけど、何かその子の苦しみとか吐き出させるじゃないですけど、気紛らわせるみたいな。ンション上げてみたりだとか、逆に落としてみたりだとか、いろんなことをやってみたんですけど。	子どもの状態に合わせて関わり	

#### ④ カテゴリーの関係をとらえる

4番目に、カテゴリー化したもの、それぞれの関連性を見る。ここでは、カテゴリーの関連性を見るために、「カテゴリー関連図」を図示したりする。ここでは、同じようなカテゴリーをグループにまとめ、カテゴリーグループをつくったり、研究全体の主題を表わすコア（中核）カテゴリーを見出す。また、カテゴリーの統合を行なう。

#### ⑤ 比較

グラウンデッド・セオリー・アプローチでは、「比較」が重要だとされており、作業の全段階を通して比較が行なわれる。戈木<sup>23)</sup>によれば、比較には、「データに基づく比較（データ内、データ間）」と「理論的比較」があるという。本研究においても、「こころの家庭教師の経験の短いインフォーマント」と「こころの家庭教師の経験が5年以上のインフォーマント」のデータの比較を行なった。

そして、経験歴の違いにより、関わり方にどのような差があるのかということをも、比較・検討した。

#### ⑥ 仮説の生成

カテゴリーやカテゴリーグループの関連づけを行い、それらが、「こころの家庭教師としての関わり方」において、どのような位置にあるのか、ということをもデータと照らし合わせて判断しながら、それらを統合し、仮説を生成した。本研究においても、最後に、経験年数の違いによる比較と仮説の生成を行なっている。

### Ⅲ. 結果

#### 1. カテゴリーの生成

以上のように、グラウンデッドセオリーの手法に準じて、6名のこころの家庭教師の方々のインタビューデータを分析した。本稿では、6名のうち、Info5の方のデータの分析を中心に紹介する。

##### (1) インフォーマント

Informant 5 こころの家庭教師歴 5年以上。関わった人の様子・・・不登校、自閉症

##### (2) Info 5 結果の分析

表4 カテゴリーグループ Info5

カテゴリー	カテゴリーグループ
a. 相手のニーズに合わせた関わり	①相手のニーズに合わせる
b. 相手のニーズと教師の妥協点	
c. 子どもの好きなことを通して関わる	
d. 子ども自身の力になる関わり方	
e. まわりの友人も含めて関わる	
f. 相手に合わせた目標の設定	
g. 程よい距離感	②程よい距離感
h. モデルとしての関わり	③モデルとしての関わり
i. 継続して関わり続けること	④継続して関わる
j. 枠組みを守る	⑤枠組みを守る
k. 家族とコミュニケーションをとる	⑥家族との協力による子どもの変化
l. 家族の中に入っていくこと	
m. 家族を支えていく	
n. 母子ともに支える	
o. 家の構造を見る	
p. 家族のニーズに答える	
q. 母子間での葛藤	⑦家族のコミュニケーションの問題点
r. 父親の関わりの少なさ	
s. 家族の力	
t. 子どもとのエピソード	⑧子どもとの関係性の変化
u. 子どもとの関係性の変化	
v. 子どもの世界を広げる	
w. 失敗したこと	⑨失敗したこと
x. イメージとのギャップ	⑩イメージとのギャップ
y. 治療構造のあいまいさ	⑪治療構造のあいまいさ

以上のように、Info5からは、11のカテゴリーグループが抽出された。

##### (3) Info5のカテゴリーとカテゴリーグループの生成

(2)で導かれたカテゴリー生成までの、詳しいプロセスは、次に示すとおりである。

表5 Info5のカテゴリーとカテゴリーグループの生成

発言の内容	カテゴリー	カテゴリーグループ
はい、家庭教師っていう話だったんですけど、どちらのご家庭からも、勉強を教えてくださいというオーダーはなかったんですね。A君のほうは遊んでくれる人という希望だったし、B君のほうは大人のお兄さんとの関係ができればいいなということだったので、僕のほうも勉強を教えに行くというつもりでなく、はじまった感じですね。	a. 相手のニーズに合わせた関わり	①相手のニーズに合わせる
理想の家庭教師っていうのは難しいなって思ったんですけど、・・・相手のニーズに合わせられる人。自分から相手の家を訪問しているということで、こちらのニーズに合わせるっていうよりは、相手のニーズと自分の持っている方法の妥協点を見つけられる人っていうほうがいいと思いますね。	b. 相手のニーズと教師の妥協点	
彼はまあ、野球が大好きだったんですね。僕の住んでる所には、広いグラウンド、先生と野球をできるところがあったので、そこにこう、連れて行って野球をさせようかなってことで、行ったんで。	c. 子どもの好きなことを通して関わる	
まあ、僕から教わったっていうよりも、彼自身が力になってる感じがするので、そっちのほうがいいなって思って、影でしめしめとったり。そんな、面と向かってお礼を言われたり、それはたんなるこちらへのサービスだったり、まだ彼のものにはなっていない感じがして、ふーんて思うだけかもしれませんね。	d. 子ども自身の力になる関わり方	
そうですねー。周りにいる人もひっくるめて、関わっていく。いやあ、今は2人だけであってる時間だから、友達とかは来なくてくれとか、友達に言わせたり、僕が言ったりせずに、その後、必ず今日はいろんな人が来ちゃって、どうだった、て気を使ったりしましたけれども。	e. まわりの友人も含めて関わる	
普通の家庭教師との違いに何があるかなって考えた時に、家庭教師として入っていく時に、ゴールの設定をそこにするのか、ていうのはそれぞれ、そこは、こうはっきりさせたほうが、お互いに会いやすいかもしれないなって思いましたね。	f. 相手に合わせた目標の設定	
こっちにも譲れないものがあって、これは譲れないっていうのがあったんで、できないものはできないっていうのがあったんで、全部が全部彼らにあわせてたら、大変になってしまう。たぶん、家庭教師側も大変になっちゃうし、子どもの方もあんまり侵入される感じはいやだったかもしれないし。	g. 程よい距離感	②程よい距離感
例えば、A君のほうは、僕の狙いとしては、完璧主義なところがあったので、もう少しなんかいい加減でもいいんだよという1つの大人のモデルになればいいなど。	h. モデルとしての関わり	③モデルとしての関わり

<p>僕は家庭教師という立場をいかしていくのならば、家庭教師は細々とでも、一生つきあっていくってことだと思います。例えば、年に1回でも年賀状を出し合うとか、いうことですかね。それが、僕が家庭教師として出会った僕の利点かな、と思いますね。</p>	<p>i. 継続して関わり続けること</p>	<p>④継続して関わる</p>
<p>それが、2人が会って行くための構造、構造を守る、どっちにも負担がかからないために、譲らない部分は譲らない。時間とかもそうですよね。日程の頻度とか、増やしたりせずにこうっていうのはありましたね。</p>	<p>j. 枠組みを守る</p>	<p>⑤枠組みを守る</p>
<p>その頃僕は、両方の家で夕ご飯をもらって帰ることがあって、こっちのお母さんはこういう作りそうで、こっちのお母さんはこういう作りそうだよなっていうのはありましたね。どちらがいい悪いじゃないですけど、違うなって見ていますよね。ちょっと子どものどこっていうことにはならないかもしれないですけど。</p>	<p>k. 家族とコミュニケーションをとる</p>	
<p>僕が一つ考えたのは、治療的家庭教師として大切なのは、家族に入っていくっていうことだと思うんですよね。だから、そういうグループのダイナミクスみたいなものを見ることをめんどくさいと思わない人がいいと思うんです。</p>	<p>l. 家族の中に入っていくこと</p>	<p>⑥家族との協力による子どもの変化</p>
<p>ありますよね。難しい家庭だなんていうのはありますが、そこで家族まで変えようとは思わなかったですね。望むほうに支えていこうとは思いましたけれども。</p>	<p>m. 家族を支えていく</p>	
<p>そうですね、問題のない家族なんてないですからね。母親も支えていこうっていう気持ちにはなりますよね、子どもためにも。両方の家庭に対して思いましたね。</p>	<p>n. 母子ともに支える</p>	
<p>人は、僕が行く時間は母親しかいないから、もちろん人もそうですけど、家のつくり。置いてあるものとか、飾ってあるものとか、家の中の様子ですね。どんなふうなのか、っていうのは興味をもって眺めてましたね。</p>	<p>o. 家の構造を見る</p>	
<p>うん、そうですね、でもね、B君のほうは治療みたいなものはしなくてもいいです。とにかく、一緒にいて、いい関係をつくってあげて下さいっていうのが多かったですし、たぶん、B君のほうは、本人が心理学専攻の人をオーダーしたわけではないので、ご家族が、母親が障害を理解している人の方がいいだろうって。</p>	<p>p. 家族のニーズに答える</p>	
<p>お母さんと子どもとの間でどのようにバランスをとっていくのかっていうのが難しかったかな、って思いますね。それもまた大切なことだし、家庭教師の醍醐味だとは思っていたんですけども。</p>	<p>q. 母子間での葛藤</p>	<p>⑦家族のコミュニケーションの問題点</p>
<p>両方の父親とも会ったことはあるんですけど、僕が行っていたのは平日の夕方だったので、あんまり父親に合う機会はなかったですね。</p>	<p>r. 父親の関わり方の少なさ</p>	

上手いかなかったケースは、家庭に力がないことが多い。	s. 家族の力	
B君が持っている地球儀を僕がなおしてあげることがあったんですね。で、その後から、僕とB君の関係がちょっとできたなって、僕は感じられましたね。	t. 子どもとのエピソード	⑧子どもとの関係性の 変化
はじめのころは、僕のほうが力があるし、技術もあったんですけど、だんだん抜かれていって、最後の方は、彼の球が速くて、取れないぐらいになりましたね。	u. 子どもとの関係性の 変化	
B君のほうは、モデルというよりは少し彼の世界が広がればいいのかと思って。ほらほらこっちの世界も悪くないでしょって。	v. 子どもの世界を広げる	
はい、具体的な話しとかで、ありますねー。A君と一緒に野球を見に行く機会があって、行ったんですけど、ナイターだからビール飲みながらと思って、ビール飲んでたら眠くなってしまって。これはちょっと家庭教師中にお酒を飲むのはやめたほうがいいなって・・・。ははは、思いましたね。	w. 失敗したこと	⑨失敗したこと
先入観はあったとおもいますよ。自閉症はどんな障害だろうって、あと、不登校っていうのは、こんな症状じゃないかと思って行ったり、でも、その子たちを目の前にしたら、A君なんかは、元気で明るい子じゃないかって、どこでしょうね。	x. イメージとのギャップ	⑩イメージとのギャップ
だから、2人で何をするかは、行ってから何をするか決めればいいのかという感じでした。それを治療的家庭教師と言っていいのかって若干、不安はあったんですけど。	y. 治療構造のあいまいさ	⑪治療構造のあいまいさ

#### (4) Info 5 の特徴

まず、Info 5 に一番特徴的なのは、⑥家族との協力による子どもの変化、というカテゴリーグループである。Info は積極的に家族の中に入っていき、子どもだけでなく、「母子ともに支える」という関わり方をしている。

2 番目にあげられるのは、①相手のニーズに合わせる、のカテゴリーグループの中の、[d. 子ども自身の力になる関わり方] と、[f. 相手に合わせた目標の設定] である。Info 5 は、相手のニーズにあわせながらも、いつも、「子ども自身の力になる関わり」を目指しており、相手に合ったゴール（目標）の設定をするようにしているところに特徴がある。

3 番目にあげられるのは、⑤枠組みを守る、である。Info 5 が強調していたのは、子どもとの関わりが長くなるにつれて、だんだんいろいろな枠組みがゆるくなっていく。そして、最初に決めていたいろいろな約束が、だんだん守れなくなってしまう。そのため、できるだけ「枠組み」というものを意識した関わりを心がけたということである。

以上のように、ここでは6人のインフォーマントのうち、1人のインタビューを分析したものを紹

介した。

次に、6人のデータを比較した結果を示す。

## 2. 経験年数の違いによる比較と仮説の生成

### (1) 6人のデータの比較

「II 方法」でも述べたが、グラウンデッド・セオリー・アプローチでは、「比較」が重要だとされており、作業の全段階を通して比較が行なわれる。本研究においても、「こころの家庭教師の経験の短いインフォーマント」と「こころの家庭教師の経験が5年以上のインフォーマント」のデータの比較を行なった。そして、経験歴の違いにより、関わり方にどのような差があるのかということ、比較・検討した。

6人のInfoのデータから抽出された最終的なカテゴリーグループは、以下の通りである。

表6 カテゴリー・グループ表

Info1 T・Sさん	Info2 F・Sさん	Info3 S・Yさん
相手のニーズに合わせる事	相手のニーズに合わせる事	相手のニーズに合わせる事
親近感がある	親近感がある	親近感がある
相手を受け入れること	少し子どもをリードする	子どもに対する関わり方
コミュニケーションについての悩み	家族からの期待	家族内のいろいろな問題
子ども自身の不安と葛藤	家庭教師の条件	家族への関わり方
家庭教師の条件		家庭教師の条件
期待していること		家族からの期待

Info4 S・Tさん	Info5 S・Sさん	Info6 M・Mさん
相手のニーズに合わせる	相手のニーズに合わせる	相手のニーズに合わせる
親近感がある	程よい距離感	教師の適確な指導力
継続した関わり	モデルとしての関わり	継続して関わること
枠組みを守る	継続して関わる	家族とコミュニケーションをとる
自分のできることをする	枠組みを守る	家庭教師の条件
援助資源の活用	家族との協力による子どもの変化	子どもの期待
家族との協力による子どもの変化	家族のコミュニケーションの問題点	
家族内コミュニケーションの悪循環	子どもとの関係性の変化	
家庭教師の条件	失敗したこと	
	イメージとのギャップ	
	治療構造のあいまいさ	

## (2) カテゴリーグループの比較から導かれる仮説

表6のカテゴリーとカテゴリー表から、こころの家庭教師の経験年数により、次のようなことがいえる。

- ① [相手のニーズに合わせる]というカテゴリーは、全部のInfoに共通するカテゴリーである。
  - ② こころの家庭教師歴が短いInfo 3人に共通するカテゴリーは、[相手のニーズに合わせる] [親近感がある]である。
  - ③ こころの家庭教師歴5年以上のInfo 3人に共通するカテゴリーは、[相手のニーズに合わせる] [継続した関わり] [家族との協力による子どもの変化]である。
- ①～③から導かれる仮説として次のような仮説があげられる。

- 1、こころの家庭教師として、一番重要な関わり方は [相手のニーズに合わせた関わり] である。
- 2、こころの家庭教師歴の短いInfoは、子どもと仲良くなることや、身近に感じてもらえることなどの [親近感がある] ということに関わりの中心にしている。
- 3、こころの家庭教師歴が長くなると、子ども本人だけでなく、[家族との協力による子どもの変化] を望むようになり、実際に家族と協力することによって問題を解決する。
- 4、こころの家庭教師を長く続けていくと、[子どもに継続して関わる] ことの重要性に気づく。

## IV. 総合的考察

### 1. 本研究で得られた仮説についての考察

本研究は、「いろいろな問題をかかえる人に対して、こころの家庭教師はどのように関わるのが望ましいか？」ということをはっきりとすることが目的であった。そのため、質的研究法の1つであるグラウンデッド・セオリー・アプローチの手法に準じて、6人のこころの家庭教師の方のデータを分析した結果、最終的には、「こころの家庭教師としての望ましいかかわり方」の仮説を生成した。

本研究で得られたことを、まとめると次のようになる。

#### (1) こころの家庭教師として、一番重要な関わり方は「相手のニーズに合わせた関わり」である。

本研究において、こころの家庭教師として一番大切なのは、「相手のニーズに合わせた関わりである」ということが明らかになった。

そして、そのカテゴリーグループに属するカテゴリーは、Info 1～Info 6まで、多数にわたる。それらの一覧を提示すると、次のようである。

#### <「相手のニーズに合わせた関わり」のカテゴリー一覧>

- ① 相手のニーズに合わせる
- ② 関係づくりのための工夫

- ③ 子どもの興味のある話題が豊富
- ④ 子どもの気持ちがわかる
- ⑤ 非言語的コミュニケーション
- ⑥ 相手のニーズと教師の妥協点
- ⑦ 子ども自身の力になる関わり方
- ⑧ まわりの友人も含めて関わる
- ⑨ 相手に合わせた目標の設定
- ⑩ メンタル面のサポート優先
- ⑪ 子どもの悩みを理解する
- ⑫ 子どもの自己理解を援助する
- ⑬ 相互のコミュニケーション

これらを総合して、相手のニーズに合わせた関わり方を考察すると、次のようになる。

- ① 相手の状況に合わせながらも、全体的な見立てと見通しを立てる。

相手のいろいろな要望に答えつつも、相手の現状の理解をし、悩んでいることや問題点を把握し、全体的な見立てと見通しを立てることも必要である。そのためには、相手に合わせた目的や目標を決めることも有効である。

- ② 相手のニーズに合わせた関わりのできる家庭教師の柔軟性と工夫が大切である。

相手の要求にただ単に合わせるということではなく、個々に合った多角的な関わりをするということである。クライアントの状況や問題や症状に合わせて、(例えば、不登校や発達障害など)アプローチの仕方を柔軟に工夫することが必要であるということである。また、具体的なアドバイスをできる力も必要になるであろう。

(2) こころの家庭教師歴の短いInfoは、子どもと仲良くなることや、身近に感じてもらえることなどの【親近感がある】ということに関わりの中心にしている

### 発言例

優しいってすごく難しいけど、大事な要素かなって、なんか安心できるっていうか、その人と一緒にいて、そういう空間を、なんかわざとらしくでなく、自然にこう、そういう雰囲気を出せる人ってすごくいいかなって。
(優しい。?)
優しい、なんか安心するとか、落ちつくとか。なんか、その人の前だと素直になれるとか、何でも出せるとか、そういうのっていいかなと。(Info 3)

子どもにとって、一緒にいてほっとできることや、安心できること、ありのままにいられることは、こころの家庭教師としてとても大切なことである。子どもと仲良くなり、身近に感じてもらえることが、「親近感」につながっていくのであろう。家庭教師歴の短い人の方が、この「親近感」に関わりの

中心にしているのは、相互の信頼関係を築きたいという思いが強いからであろうか。

### (3) こころの家庭教師歴が長くなると、子ども本人だけでなく、[家族との協力による子どもの変化]を望むようになり、実際に家族と協力することによって問題を解決する

子どもや家族との関係性が形成されると、今度は、家族と一緒に問題を解決していくということもできるであろう。Info 4は、ひきこもりの子どもや摂食障害の子どもに対して、子どもに関わることと同時に、家族とも協力して問題を解決している。2年間ひきこもっていた子どもが、Info 4と家族の協力によって、外出できるようになったのである。Info 5は、子どもに関わると同時に、「母親も支える」と発言していた。子どもの問題を、家族のコミュニケーションの悪循環と捉えているところが、Info 4とInfo 5の共通点である。

このように、家族と協力して子どもに関わることは、特に不登校やひきこもりなどの問題の場合に有効である。クライアントだけでなく、家族と協力することによって、問題がよい方向に解決するということがわかった。両親も支えていくということが、問題を解決していくためには必要である場合もある、ということである。

### (4) こころの家庭教師を長く続けていくと、[子どもに継続して関わる]ことの重要性に気づく

#### 発言例

やっぱり、子どもと一緒に悩みつづける、関わっていくって感じ。悩みそのものが解決して軌道に入るまで、関わっていく。これが大事だと思う。子どもによっては、それが10年かかったりするけどねー。(Info 6)

このように、こころの家庭教師歴の長い人は、子どもに継続して関わるのが大切だという。

家庭教師をしていると、いろいろな問題をかかえたクライアントに対して、時と場合によっては、関わるのがいやになってしまったり、どうしてよいかわからなくなることもあるであろう。しかし、相手に対して、1人の人間として関わり続けるということが重要であるということであろう。クライアントに対して、継続して関わっていくことにより、より深く相手の理解ができ、だんだんと相手のニーズに合わせた関わりができるようになるということが言えよう。そして、家庭教師自身が相談できる援助資源を確保することも大切である。

これらの他にも、こころの家庭教師歴の長い人は、「枠組みの大切さ」を強調していた。

これについては、「こころの家庭教師の問題点」としてもあげられていた。枠組みについては、時間的な枠組みと空間的な枠組みの2つがあり、どのInfoも空間的には柔軟に対応していることがわかる。Info 3は、子どもとその母親と一緒に、サイクリングに出かけている。Info 4も映画を観に出かけたり、外出している。Info 5は、毎回公園で野球をしていたという。しかし、時間的な枠組みについては、どのInfoも「枠組みの崩れること」について、悩んでいることがわかった。そして、最初はなかなか言い出せずにいたとしても、やはり「枠組みを守ること」の重要性に気づき、枠組みを守ること

に努力するようになっている。以上の点から、空間的な枠組みに対しては時には柔軟であっても、時間的な枠組みはできるだけ守る、という関わり方が良いのではないかと筆者は考える。

特に、家庭教師の経験が長くなってくると、より、「時間的な枠組み」と「空間的な枠組み」を守ろうとする意識が強くなってくる。これは、クライアントとの関係性ができてくると、だんだんと枠組みが崩れてくるからであると考えられる。相手を理解し、相手に合わせた関わりをしようと努力する一方で、「枠組みを守る」という厳しさも必要であるといえよう。

## V. 今後の課題

### 1. 「こころの家庭教師」の今後の課題

斎藤<sup>24)</sup>によれば、「訪問援助活動による子どもと家族への効果」について、「近年、メンタルフレンドをはじめ、いろいろな訪問心理援助活動が行われるようになったが、児童相談所や各機関において、なかなか進んでいない状況がある。」という。また、「学校風土にスクールカウンセラーが入ることと同様、訪問援助活動として家族の中に家族以外のものが関わるということは、家族力動を変えることができる可能性を十分持っており、どのような臨床心理学的援助なら構造上受け入れられるかをよく練って、スクールカウンセラーも同様だが、漠然と行われるのではなくもっと確固たる体系が作られるべきだと思った。」と述べている。<sup>25)</sup>

これは「家族」という視点から見た訪問援助活動についての研究であるが、訪問援助活動としての、「治療構造のあいまいさ」と、「治療構造を構築していくことの重要性」という今後の課題を提示している。

いろいろな問題をかかえる人と、その家族に対して、どのように関わり、どのように変化し、問題が解決していったかということ、明らかにできるようにすることが、今後の課題である。

### 2. 本研究の課題

本研究では質的研究によって、いろいろな問題をかかえた人に対して、「こころの家庭教師はどのように関わるのが望ましいか」ということについて、調査・分析をし、その結果として「相手のニーズに合わせることを中心とする仮説を生成した。

しかし、今後の課題もまだ残されているといえよう。

当初の予定では、子ども・親・家庭教師の3者間の思惑の違いや期待などを、比較・検討する予定であったが、結果的には、「こころの家庭教師」を対象を絞った分析をすることになった。今後、できることならば、親・子・家庭教師の3者間の比較をしてみたい。

また、グラウンデッド・セオリー・アプローチの方法では、本来「理論的に飽和」するまで、継続して比較・分析を繰り返す。本研究では、まだ人数が足りないため、今後の課題となる。

さらに、家族との協力により、いろいろな問題を解決していくという、家族療法的な視点での研究も、今後すすめていきたいと考える。

最後に、本研究で導き出された、こころの家庭教師の「いろいろな問題をかかえる人に対する関わり方」について、家庭教師という枠組みにとどまらず、特別支援教育や子育て支援など、いろいろな臨床場面にいかしていきたいと思う。

末尾ではあるが、インタビューに協力してくださったこころの家庭教師の方々、そして、本稿の執筆にあたり、ご指導いただいた園田雅代先生に、心より御礼を申し上げたい。

(なお、原稿の掲載上、予備調査や詳しい内容について、大幅に省略してあるため、詳しい内容を知りたい方は平成18年度文学研究科教育学専攻の修士論文（創価大学中央図書館所蔵）を参照していただけると幸いです。)

---

## 引用文献 注)

- 1 菅佐和子 1988「思春期女性の心理療法—ゆれうごく心の危機」 創元社
- 2 篠原恵美・佐野秀樹 2002「精神疾患を抱える生徒に対する治療的家庭教師 その援助関係と実践的視点」東京学芸大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 26, 153-163.
- 3 氏原寛他 1992「心理臨床大事典」 培風館
- 4 鉦鹿健吉 1976「精神衛生活動における非医療的接近」季刊精神療法, 2 ; 4.
- 5 2に同じ。
- 6 村瀬嘉代子 1997「子どもと家族への援助 心理療法の実践と応用」金剛出版
- 7 近藤邦夫・成田百合子・友山和美 1982「或る登園拒否児の心理治療過程について—治療的家庭教師を通じての働きかけ—」千葉大学教育学部研究紀要,30, 27-51.
- 8 緒方明・川口久雄・小松哉子 1994「不登校への家庭教師による治療的接近」熊本大学教育学部紀要, 人間科学, 43, 169-176.
- 9 戈木クレイグヒル滋子 2005「質的研究法ゼミナール グラウンデッドセオリー アプローチを学ぶ」医学書院
- 10 能智正博 2001「質的研究, 下山晴彦・丹野義彦(編), 講座臨床心理学2 臨床心理学研究, 東大出版会, 41-60
- 11 10に同じ
- 12 原田杏子 2004「質的研究, 下山晴彦(編), 臨床心理学研究の新しいかたち」誠信書房 129-147
- 13 能智正博 2001「質的研究, 下山晴彦・丹野義彦(編), 講座臨床心理学2 臨床心理学研究, 東大出版会, 41-60.
- 14 Strauss, A. L. & Corbin, J, 1990「Basics of qualitative research : grounded theory procedures and techniques. Sage., 南裕子(監訳) 1999, 質的研究の基礎: グラウンデッドセオリーの技法と手順, 医学書院
- 15 Glaser, B.G. & Strauss, A. L. 1967 「The discovery of grounded theory: strategies for qualitative research. Aldine. (後藤隆・大出春江・水野節夫(訳) 1996 データ対話型理論の発見 新曜社)
- 16 木下康仁 1999「グラウンデッド・セオリー・アプローチ 質的実証研究の再生」弘文堂

- 17 戈木クレイグヒル滋子 2005「質的研究法ゼミナール グラウンデッドセオリー アプローチを学ぶ」医学書院
- 18 水野将樹 2001「友人との間に形成される信頼関係についての研究～そのプロセスと構造について～」
- 19 木下康仁 1999「グラウンデッド・セオリー・アプローチ 質的実証研究の再生」弘文堂
- 20 水野将樹 2001「友人との間に形成される信頼関係についての研究～そのプロセスと構造について～」
- 21 木下康仁 1999「グラウンデッド・セオリー・アプローチ 質的実証研究の再生」弘文堂
- 22 Anselm Strauss・Juliet Corbin 1990「Basics of Qualitative Research Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory」操華子・森岡崇訳 1999「質的研究の基礎 グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順 第2版」医学書院
- 23 戈木クレイグヒル滋子 2005「質的研究法ゼミナール グラウンデッドセオリー アプローチを学ぶ」医学書院
- 24 斎藤暢一朗 2006「訪問援助活動に関する研究—訪問援助機関の現状と課題—」
- 25 24に同じ

### (参考文献)

- Anita Roberts 2001「*Safe Teen : Powerful Alternatives to Violence*」園田雅代 監訳  
2006「自分を守る力を育てる セーフティーンの暴力防止プログラム」金子書房
- 保坂亨著 下山晴彦編 1998「児童期・思春期の発達 教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学」 東京大学出版会
- 平木典子 2003「カウンセリング・スキルを学ぶ」金剛出版
- 平木典子・中釜洋子 共著 2006「家族の心理 家族への理解を深めるために」サイエンス社
- 平木典子 1998「家族との心理臨床 初心者のために」垣内出版
- 原田杏子 2003「人はどのように他者の悩みをきくのか グラウンデッド・セオリー・アプローチによる発言カテゴリーの生成」教育心理学研究 51, 54-64.
- 長谷川啓三・若島孔文編 2002「家族療法 短期療法 物語療法」金子書房
- 朝風原朝和・市川伸一・下山晴彦編 2001「心理学研究法入門」東大出版会
- 市川伸一 1995「学習と教育の心理学」岩波書店
- 石川元 1990「家族と治療する」未来社
- 乾吉佑編 2005「臨床心理学 27 11歳から15歳の心的世界」金剛出版
- 伊藤美奈子 2002「スクールカウンセラーの仕事」岩波アクティブ新書32
- 伊藤美奈子 2002「メンタルフレンド活動による不登校児童の変化—不登校のタイプとメンタルフレンドの属性による比較—」カウンセリング研究 35, 256-264.
- 川喜多二郎 1967「発想法」中央公論社
- 木村文香・中村干城・和田環他 1999「メンタルフレンド自身による活動の活性化と充実化に向けての実践 - メンタルフレンドの相互援助ネットワークづくり -」明治安田こころの研究財団 研究助成論文, 35, 232-234.
- 串崎真志 2001「心理的支えに関する臨床心理学的研究」風間書房
- 亀口憲治 2003「家族療法的カウンセリング」駿河台出版社
- 村瀬嘉代子 1995「こどもと大人の心の架け橋」金剛出版
- 村瀬孝雄 1996「中学生の心とからだ—思春期の危機をさぐる」岩波書店
- 水野将樹 2004「青年は信頼できる友人との関係をどのように捉えているのか グラウンデッド・セオリー・アプローチによる仮説モデルの生成」教育心理学研究, 52, 170-185.
- 水野昭夫 2004「なぜ訪問(往診)は普及しないのか 現代のエスプリ - 訪問カウンセリング - 157 - 166.
- 文部科学省 2002「学習障害(LD)への教育的支援 全国モデル事業の実際」ぎょうせい
- 文部科学省 2003「学習障害(LD)への教育的支援 全国モデル事業の実際(続)」ぎょうせい
- 武藤清栄・渡辺健 2004「現代のエスプリ 445 訪問カウンセリング 危機に立ち臨み語るこころ」至文堂
- 日本家族心理学会 編集 2004「家族内コミュニケーション こころを運ぶことばの力」家族心理学年報 22, 金子書房
- 中井久夫・山中康裕 1978「思春期の精神病理と治療」岩崎学術出版社
- 中釜洋子 2001「いま家族援助が求められるとき」垣内出版
- 清家久美子 1984「マリア先生が欲しかった少女」東京大学教育学部心理教育相談室紀要 第7集, 42-48.

- 
- 斎藤環 1998 「社会的ひきこもり」PHP研究所
- Strauss, A. L. & Corbin, J, 1990 『*Basics of qualitative research: grounded theory procedures and techniques*. Sage, 南裕子 (監訳) 1999, 質的研究の基礎: グラウンデッドセオリーの技法と手順, 医学書院
- 戈木クレイグヒル滋子 2006 「ワードマップ グラウンデッド・セオリー・セオリー・アプローチ —活用のための方法とノウハウ」新曜社
- 菅佐和子 2005 「思春期心理臨床のチェックポイント カウンセラーの「対話」を通して」創元社
- 佐々木正宏 他編著 1994 「思春期・青年期の心理的問題の理解 思春期・青年期の臨床心理学」駿河台出版社
- 鈴木浩二編 1999 「こころの科学85 現代の家族」日本評論社
- 田口香代子・鶴養啓子 1998 「治療的家庭教師をめぐる 昭和女子大学生活心理研究所紀要, 63-72.
- 田中千穂子・栗原はるみ・市川奈緒子 編 2005 「発達障害の心理臨床 子どもと家族を支える療育支援と心理臨床的援助」有斐閣アルマ
- 滝川一廣編 1998 「こころの科学78 中学生は、いま」日本評論社
- 滝川一廣 2004 「新しい思春期像と精神療法」金剛出版
- Uwe Flick著 小田博司他訳 2002 「*Qualitative Forschung von Uwe Flick* 質的研究入門 <人間科学>のための方法論」春秋社